

令和 6 年 5 月 8 日現在

機関番号：31603

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K14065

研究課題名（和文）カンボジアにおける肢体不自由入所児童への施設内療育と心理ケアの実践とその定着

研究課題名（英文）Practice and Establishment of Institutional Rehabilitation and Psychological Care for Children with Physical Disabilities in Cambodia

研究代表者

原田 真之介（Harada, Shinnosuke）

医療創生大学・心理学部・講師

研究者番号：70802883

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、カンボジアプノンペン市にある国立障害児入所施設(National Borei for Infant and children (以下、「NBIC」))において、施設内療育システムの構築を目的とした研究である。本研究は、日本で開発された肢体不自由の療育技法である臨床動作法を中心として、上記の施設職員への研修を通じた教授と、常日頃からの療育活動を実施するためのシステム作り、運営補助を行いながら、最終的には、施設職員自らが行った臨床動作法を通じた入所児童への座位の粗大運動の発達、生活自立機能の向上といった側面の効果検証を行い、それぞれで、量的、質的ともに改善効果が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

カンボジアでは、障害者の社会参加の推進を国際レベルにまで引き上げる政府方針を抱えている。しかしながら、現状は障害者の社会参加を促す社会システムが構築されていない。特に、障害児の生活能力の向上を図るための特別支援教育については、システム面だけでなく、専門知識やアプローチ方法の手段も浸透していない。本研究の活動は、1つの施設を対象とした研究成果であるが、その成果は英文雑誌、一部はクメール語の著書として報告がなされている。以上の雑誌や著書で示された知見や実践方法、事例成果といった内容が今後他の実践現場でも広がりを見せ、将来的な特別支援教育の社会システムの構築においても機能する可能性が考えられる。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this research is to establish an in-facility rehabilitation and education system at the National Borei for Infant and children ("NBIC") in Phnom Penh, Cambodia. This research is centered on the clinical movement method, which is a rehabilitation education technique for the physically handicapped developed in Japan, and is taught through training to the facility staff mentioned above, while creating a system to implement rehabilitation education activities on a daily basis and providing operational assistance. The effectiveness of the clinical movement method was verified in terms of the development of movement and the improvement of independent living functions, each of which showed improvements both quantitatively and qualitatively.

研究分野：臨床心理学、特別支援教育学

キーワード：カンボジア 特別支援 肢体不自由 療育 自立 臨床動作法 施設

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の研究フィールドであるカンボジアは、2012年に国際的な障害者の権利条約に批准したことを契機として、障害者の社会参加の実績を国際レベルにまで引き上げる政府方針を掲げている。しかしながら、カンボジアは、これまで自国の経済成長に偏った政策を進めてきたこともあり、障害者の教育や支援体制が自国で整っていない問題がある。また、障害者の社会参加の実現に不可欠とも言える特別支援教育については、専門的な知識や技術を有する人材が不足し、人材育成の面でも体制は整っていない。そのため、カンボジアでは、専門的な療育実践が行われる現場自体が確立されておらず、療育次第で自身の社会参加の可能性が十分広げられる障害児の能力が開発されないでいる事例も潜在的に生じていると考えられる。

一方で、日本のNPO団体である「こころとからだの発達サポートシステム」による活動で、カンボジアでの継続的な療育支援が20年以上にわたって行われている。上記の団体は、カンボジア首都プノンペン市にある国立の障害児入所施設(National Borei for Infant Children:NBIC)と連携し、臨床動作法と呼ばれる日本で開発された療育技法の実践を施設職員の技法教授の指導や入所児童への直接的な支援という形で行っている。臨床動作法は、肢体不自由児者の障害改善に効果があり、1960年代に成瀬悟策によって開発されて以来、数多くの研究知見を示してきた。臨床動作法は、文字通り、障害児者の動作に介入する技法で、自身の身体を適切に弛める、力を入れる、姿勢を保持する、といった能力開発を図る技法である。臨床動作法は、障害児者の身体にアプローチする技法であるため、障害児者の身体的側面の自立機能の向上に機能することはもちろんのこと、身体改善による健康面や心理面の改善や、外界環境の把握力の向上、動作改善を目的とした援助者とのやりとり体験を通じたコミュニケーション能力の向上も示されている。NBICは、入所児童の8割ほどが肢体不自由を抱える障害児で、80名以上の肢体不自由児が入所している。以上の背景から、NBICにおける臨床動作法へのニーズが高く、「こころとからだの発達サポートシステム」は年2回訪問して、短期的なワークショップの機会を持ち、継続的に活動している。また、長期的な活動の過程で、日本の学術団体である日本リハビリテーション心理学会が認定する臨床動作法の専門資格を持つカンボジア人4名が養成され、専門家の人材不足という問題にもアプローチする実績を挙げている。

### 2. 研究の目的

本研究では、NBICにおける臨床動作法のこれまでの実績を足掛かりに、NBICにおける臨床動作法を中心とした施設内療育システムを確立し、常日頃から肢体不自由を抱える入所児童に臨床動作法を施設職員が提供する体制作りとその実践を目的とした。また、作り上げた臨床動作法による療育システムを通じた入所児童への効果検証や、提供する介入内容の質を向上させるための、教材テキストや教材動画の開発、研究活動を通じた知見の還元といったアプローチも行うことを目的とした。以上の目的が達成されれば、カンボジア国内での専門的な障害児者への療育実践の現場の確立という実績が生まれ、さらには、上記の現場をカンボジア人自らの手で運営し、効果的な知見を挙げるという実績まで獲得できる。また、上記の実現場や体制を維持、向上させるための教材や役立つ研究知見の発掘と還元ができることで、より効果的な療育実践をカンボジア国内で提供する社会的意義が担保される。

以上の目的から、本研究では以下の研究テーマを設定した。まずは、研究1として、「肢体不自由を抱えるカンボジア人当事者とその支援者に焦点を当てたインタビュー研究」を行った。研究1は、カンボジアにおける肢体不自由を抱える障害者の自立意識の芽生えと行動に関するプロセスを明らかにする目的と、障害者支援に関する困難性や課題についての実態調査を目的とした。次に、研究2「肢体不自由を抱える障害当事者目線での臨床動作法を通じた睡眠改善のプロセス研究」を実施した。研究2では、肢体不自由児者におけるメンタルヘルスの改善について、睡眠改善に注目し、臨床動作法を通じた改善過程でどのような治療体験が先の改善に機能したのかについて明らかにし、カンボジア国内での実践に還元するための調査を目的とした。研究3では、「臨床動作法を通じた座位の粗大運動の発達に関する効果検証研究」を行った。研究3では、実際に臨床動作法による介入を行い、介入前後での肢体不自由児の座位の粗大運動の発達に効果的な変化をもたらすかについて検証することを目的とした。研究4では、「肢体不自由を抱える施設入所児童における臨床動作法を通じた自立機能の向上と職員における介助負担の軽減に関する研究」を行った。研究4では、臨床動作法による施設内療育を通じて、施設の入所児童の日頃の自立機能の向上についての具体的な内容を整理し、それぞれの内容ごとの関連性の検討することを目的とした。また、上記の自立機能の向上を通じた職員の介助負担の軽減についても検証し、負担軽減の具体的な理由についても明らかにすることを目的とした。

### 3. 研究の方法

#### 研究1-1(肢体不自由を抱えるカンボジア人当事者のライフストーリー研究)

研究協力者:カンボジア出身かつ在住で、経済的自立を実現している肢体不自由を抱える障害当事者1名

**調査時期：**2020年9月

**手続き：**カンボジアで生まれてから現在至るまでのライフストーリーについて回答するためのインタビューガイドを作成し、研究協力者に Zoom を通じてオンライン上でのインタビューを行った。研究協力者は、日本語での対話が可能であるため、通訳者を設定せず、インタビューガイドに基づいて、研究者が口頭で質問して行った。

#### **研究 1-2 (カンボジアにおける障害者支援に携わる実践者を対象としたインタビュー研究)**

**研究協力者：**カンボジアの障害者支援に 10 年以上携わる者 3 名

**調査時期：**2021年9月から2022年3月

**手続き：**カンボジアでの障害者支援のキャリアとその内容、また支援経験を通じた困難性、カンボジア国内の課題について回答するためのインタビューガイドを作成し、研究協力者に Zoom を通じたオンライン上のインタビュー研究を行った。研究協力者は、日本人 2 名と日本語の対話可能なカンボジア人であったため、通訳者は設定せず、インタビューガイドに基づいて、研究者が口頭で質問して行った。

#### **研究 2 (肢体不自由を抱える障害当事者目線での臨床動作法を通じた睡眠改善のプロセス研究)**

**研究協力者：**臨床動作法を通じた睡眠改善を経験した脳性麻痺の当事者 8 名

**調査時期：**2020年4月から10月

**手続き：**研究協力者に対して、自身の抱えてきた睡眠障害の内容と、臨床動作法を通じた治療体験の内容や改善実現までの過程について聴取するためのインタビューガイドを作成し、インタビューを行った。口頭での回答が困難な研究協力者には、PC 入力での書字回答や補助器具、補助者をつけることで対応した。収集したデータを逐語にして、複線径路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model) 分析によって分析した。

#### **研究 3 (臨床動作法を通じた座位の粗大運動の発達に関する効果検証研究)**

**研究協力者：**カンボジア在住の脳性麻痺児童 12 名

**調査時期：**2023年8月から9月

**手続き：**3 日間の集中的な動作法による介入を行い、計 6 セッション実施した。アウトカム指標として、世界的に使用され、信頼性と妥当性の確認もされている Gross Motor Function Measure Manual-88 : GMFM-88(B : 座位)を使用した。アウトカムの測定は、動作法の介入の前後で介入者ではない人物が行った。介入前後の得点の有意差と効果量をウィルコクソン順位総和検定で確認した。

#### **研究 4 (肢体不自由を抱える施設入所児童における臨床動作法を通じた自立機能の向上と職員における介助負担の軽減に関する研究)**

**研究協力者：**カンボジア首都プノンペン市にある国立障害児入所施設(National Borei for Infant Children : NBIC)に勤務する職員 13 名

**調査時期：**2024年2月から3月

**手続き：**日本人の連携研究者 1 名が NBIC に赴き、研究代表者とカンボジア現地との間で Zoom を用いて通信し、オンラインでのインタビュー研究を行った。インタビュー内容の通訳は、カンボジアでの動作法支援や研修活動においてクメール語と日本語の通訳を 5 年以上勤め、プノンペン市内の日本語学校に勤めるカンボジア人 1 名が行った。インタビューガイドについては、Table1 に示すように、入所児童における動作法を通じた日常場面の变化を身体面、健康面、メンタル面、対人関係面、外界認知面、コミュニケーション面の計 6 つの側面から質問した(質問項目 1 から 6)。質問項目 7 から 8 については、動作法を通じた入所児童への介助負担の内容とした。質問項目 7 では、動作法を通じた入所児童への介助負担の変化として、「1 : 減った」、「2 : 変わらない」、「3 : 増えた」の 3 択で回答を求めた。上記の質問で、「1 : 減った」と回答した者のみ、質問項目 8 の回答を求め、介助負担が減った具体的な理由について回答を求めた。回答内容については、録音機器を使用して逐語を作成した。

質問項目 1 から 6 と 8 については、KJ 法によるカテゴリー分析を行った。質問項目 7 については、カイ二乗検定で介助負担の療育体制の整備については、カンボジア人の臨床動作法の専門資格を有する者 2 名が NBIC に在籍しており、左記の 2 名が指導し、週 4 回の臨床動作法セッションを施設職員が、入所児童に提供する時間を持つこととした。「1 : 減った」、「2 : 変わらない」、「3 : 増えた」の 3 つの選択肢の回答度数の差を検定した。

### **4 . 研究成果**

#### **研究 1-1 (肢体不自由を抱えるカンボジア人当事者のライフストーリー研究)**

本研究の成果については、以下の論文雑誌に問題と目的、研究方法とともに掲載されている。成果の要約としては、本研究は、カンボジアの障害当事者の体験に焦点を当てた数少ない事例的知見を示すことができた。具体的には、障害当事者が幼少期から障害を抱える自分自身を恥ずかしいと感じ、あまり人前に出ないように心がける行動特徴、心理特徴を有している可能性や、家族内での人間関係における社会的地位や教育や自立に向けた家族サポートが本人の自尊心と自

立への希望を高める可能性が示された。また、カンボジア国外の障害当事者の生活などを知ることとも障害当事者の自立意識の高まりに機能する知見も示された。

掲載された文献

原田真之介. (2021) 障害当事者のライフストーリーを通じたカンボジア社会の現状. 地域ケアリング, 23(4), pp 58-62.

### 研究 1-2 (カンボジアにおける障害者支援に携わる実践者を対象としたインタビュー研究)

本研究の成果については、以下の論文雑誌に問題と目的、研究方法とともに掲載されている。成果の要約としては、カンボジアでの特別支援教育の普及や実践の課題性や困難性についての知見が示すことができた。具体的には、カンボジア国内で障害児に対する特別支援教育を行うこと自体の意義についての理解が十分に普及されていない点や、海外からの支援の場合の理論概念の共通理解を得るための翻訳の困難性という点、特別支援教育を実践する専門家の社会的地位の未確立がある点、人間関係の閉鎖性と言った点も示された。

掲載された文献

Harada, S., Ueda, A., & Sato, S. (2022) Difficulties in Providing International Support for People with Disabilities in Cambodia. Current Trends in Clinical & Medical Sciences - CTCMS, 3(2), DOI: 10.33552/CTCMS.2022.03.000553.

### 研究 2 (肢体不自由を抱える障害当事者目線での臨床動作法を通じた睡眠改善のプロセス研究)

本研究の成果については、以下の論文雑誌に問題と目的、研究方法とともに掲載されている。成果の要約としては、脳性麻痺児の睡眠障害の発生プロセスと臨床動作法を通じた改善体験のプロセスが明らかとなった。睡眠障害については、入眠困難と熟眠感の不全、寝返り困難による中途覚醒の問題が示された。臨床動作法での改善体験については、自身の身体や関節周りの筋緊張の弛緩体験に加え、安定した応重力姿勢の獲得による首、肩、背中周りの筋緊張の弛緩や発生の防止に機能する側面が明らかとなった。

掲載された文献

Harada, S., Ueda, A., Sato, S., Morizane, M., & Nakano, K. (2022) A Process Model for Improving Sleep through Clinical Dohsa Hou: The Subjective Experiences of Patients with Cerebral Palsy. Mental Health & Human Resilience International Journal, 6(1), DOI: 10.23880/mhrij-16000162.

### 研究 3 (臨床動作法を通じた座位の粗大運動の発達に関する効果検証研究)

本研究の成果については、以下の論文雑誌に問題と目的、研究方法とともに掲載されている。成果の要約としては、収集データにおけるヒストグラムと Quantile-Quantile Plot から臨床動作法の介入前と介入後それぞれが正規分布しないことを確認し、ウィルコクソン符号順位検定を行った(Figure1)。介入前の GMFM-88(B: 座位)の得点の中央値は 22.50 で、四分位範囲は 6.50-42.75 であった。介入後の得点の中央値は 31.50 で、四分位範囲は 9.50 から 47.75 であった。ウィルコクソン符号順位検定の結果は、統計量  $Z = 3.02$ 、 $p = .003$ 、効果量  $r = .616$  となり、介入前から介入後に向けて有意な得点上昇、高い効果量が確認された。

掲載された文献

Harada, S., Ueda, A., Hayashi, T., Okada, Y., & Nakano. (2023) Movement Therapy (Dohsa-hou) for Cambodian Children with Cerebral Palsy: Effectiveness in Improving Gross Motor Skills in Sitting Position. Archives of Health Science Research Article, 7(1), DOI:10.31829/2641-7456/ahs2023-7(1)-033.

### 研究 4 (肢体不自由を抱える施設入所児童における臨床動作法を通じた自立機能の向上と職員における介助負担の軽減に関する研究)《 》: 大カテゴリー, 《 》: 小カテゴリー

本研究では、臨床動作法の適用を通じた脳性麻痺児童の日頃の様子を観察している障害児入所施設職員の視点から、対象児童の日常生活面の自立機能の向上についての具体的な内容カテゴリーを Table1 にまとめることができた。センテンスごとの分類の段階で、カード総数は、90 カードとなった。以上のカード内容を参照してグループ分けを行い、カテゴリー分類した結果を Table1 に示した。カテゴリー内容としては、動作法を通じた入所児童の《健康面の改善》と《心理的安定》、《外界との関わり》、《動作の発達》、《人間関係とコミュニケーション》において日常場面で変化を感じたとする結果が得られた。《健康面の改善》については、入所児童の 呼吸改

善を感じる体験が示された。《心理的安定》は、入所児童の泣き行動の減少と、行動の活発性、表情における良好な変化を感じる体験が示された。《外界との関わり》は、入所児童の周囲の見回しと関心対象への凝視、リーチングといった内容で構成された。《動作の発達》については、移動動作や自発動作の積極性、自力での姿勢保持と腕の伸展や操作性の発達、把握動作の発達、排せつなどの生活動作における自立の拡大が示された。《人間関係とコミュニケーション》については、施設職員からの指示を理解して適切に応答する指示理解の向上、その他にはアイコンタクトの増加が示された。

次に、質問項目7で扱った、入所児童に対する介助負担の変化について、「1：減った」の回答数が11、「2：変わらない」の回答数が2、「3：増えた」の回答数が0であった。以上の度数からカイ二乗検定を行った結果、 $\chi^2(2) = 15.846$ で $p < .01$ で有意差が確認された。次に残差分析の結果として、介助負担が「1：減った」の回答数が、「2：変わらない」と「3：増えた」の回答数よりもそれぞれ $p < .01$ で有意に高い結果となった。

次に、質問項目8における入所児童への介助負担が「1：減った」と答えた研究協力者の理由として、回答内容をセンテンスごとに分類する段階で、カード総数は53カードとなった。以上のカード内容を参照してグループ分けを行い、カテゴリー分類した結果をTable2に示した。カテゴリー内容としては、《身体的負担の軽減》と《精神的負担の軽減》の二つの大カテゴリーに分類された。《身体的負担の軽減》としては、飲食介助の自立、車いす操作の自立、移動の自立、立ち上がりの自立、着座の自立、抱きかかえの減少の7つの小カテゴリーとなる介助負担の軽減理由が示された。一方、《精神的負担の軽減》については、泣き行動の減少、指示理解の向上、笑顔の増加、成長実感、繋がりの実感の5つの小カテゴリーとなる介助負担の軽減理由が示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 5件/うちオープンアクセス 6件）

|  |                        |
|--|------------------------|
| 1. 著者名<br>Harada, S., Ueda, A., Hayashi, T., Okada, Y., & Nakano.  | 4. 巻<br>7              |
| 2. 論文標題<br>Movement Therapy (Dohsa-hou) for Cambodian Children with Cerebral Palsy: Effectiveness in Improving Gross Motor Skills in Sitting Position. | 5. 発行年<br>2023年        |
| 3. 雑誌名<br>Archives of Health Science Research Article  | 6. 最初と最後の頁<br>オープンアクセス |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.31829/2641-7456/ahs2023-7(1)-033  | 査読の有無<br>有             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>-              |
| 1. 著者名<br>Harada, S, Sato, S, & Ueda, A.   | 4. 巻<br>3(2)           |
| 2. 論文標題<br>Difficulties in Providing International Support for People with Disabilities in Cambodia.   | 5. 発行年<br>2022年        |
| 3. 雑誌名<br>Current Trends in Clinical & Medical Sciences  | 6. 最初と最後の頁<br>-        |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.33552/CTCMS.2022.03.000553  | 査読の有無<br>有             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>該当する           |
| 1. 著者名<br>Harada, S., Yokogi, Y., Ueda, A., Ohishi, T., Sato, S., & Miyawaki, H.   | 4. 巻<br>6              |
| 2. 論文標題<br>The Case of a Cambodian man with Disabilities who Received Rehabilitative Education Support (Dohsa-hou) and Realized Social Participation   | 5. 発行年<br>2022年        |
| 3. 雑誌名<br>Journal of Medical - Clinical Research & Reviews   | 6. 最初と最後の頁<br>-        |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.33425/2639-944X.1294  | 査読の有無<br>有             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）  | 国際共著<br>該当する           |
| 1. 著者名<br>佐藤純玲・原田真之介   | 4. 巻<br>24(9)          |
| 2. 論文標題<br>カンボジア療育支援の展開に向けた“Dohsa-hou Filpbook”の作成.  | 5. 発行年<br>2022年        |
| 3. 雑誌名<br>地域ケアリング  | 6. 最初と最後の頁<br>58-62    |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-              |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Harada, S, Sato, S, & Ueda, A.  | 4. 巻<br>8(2)    |
| 2. 論文標題<br>Cambodian University Students' Views of People with Disabilities: A Pilot Study. | 5. 発行年<br>2022年 |
| 3. 雑誌名<br>International Journal of Psychology & Behavior Analysis                           | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15344/2455-3867/2022/193                                     | 査読の有無<br>有      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>該当する    |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Harada, S., Ueda, A., & Sato, S   | 4. 巻<br>2       |
| 2. 論文標題<br>Introduction to A New Approach to Treat Insomnia by Improving Daily Movements. | 5. 発行年<br>2021年 |
| 3. 雑誌名<br>Current Trends in Clinical & Medical Sciences                                   | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし  | 査読の有無<br>有      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>該当する    |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>Harada, S., Ueda, A., Morizane, M., Sato, S., & Nakano, K.   | 4. 巻<br>6       |
| 2. 論文標題<br>A Process Model for Improving Sleep through Clinical Dohsa Hou: The Subjective Experiences of Patients with Cerebral Palsy. | 5. 発行年<br>2022年 |
| 3. 雑誌名<br>Mental Health & Human Resilience International Journal   | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>有      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)   | 国際共著<br>該当する    |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>原田真之介・中野弘治   | 4. 巻<br>15・16     |
| 2. 論文標題<br>臨床動作法を通じたカンボジア障害者福祉におけるメゾ・ミクロ的アプローチの実践報告 National Borei for Infant and childrenでの実践を中心に | 5. 発行年<br>2022年   |
| 3. 雑誌名<br>医療創生大学心理相談センター紀要   | 6. 最初と最後の頁<br>印刷中 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし   | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難   | 国際共著<br>-         |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>原田真之介                         | 4. 巻<br>第23巻4号      |
| 2. 論文標題<br>障害当事者のライフストーリーを通じたカンボジア社会の現状 | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>地域ケアリング                       | 6. 最初と最後の頁<br>65-69 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし          | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>Harada, S., Sato, S., & Nakano, K.  | 4. 発行年<br>2022年 |
| 2. 出版社<br>雄峰舎   | 5. 総ページ数<br>122 |
| 3. 書名<br>Movement Training Method for People with Physical Disabilities to Sit and Stand Independently. |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

|   |
|---|
| <p>2022年から2023年にかけて、臨床動作法の映像教材として以下のYou Tube動画を制作した。制作した動画は、カンボジアでの臨床動作法研修にも使用した。映像の撮影は、本研究費の旅費を使用して、高知県の「高知県心理リハビリテーションキャンプ」の協力を得た。</p> <p>・「障がい児者のこころとからだを育む臨床動作法 事例ドキュメンタリー」<br/>『You Tube 医療創生大学（いわきキャンパス）公式チャンネル』<br/>本映像には、臨床ケース実践の映像も含まれており、個人情報保護の観点から視聴用のURLは記載はしない。視聴を希望する場合は、harada.shinnosuke@isu.ac.jp(原田真之介)にご連絡頂きたい。</p> |
|---|

| 6. 研究組織                   |                       |    |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|